事 業 常 任 委 員 会

平成 1 9 年 6 月 7 日 (木)

事業常任委員会

日 時 平成19年6月7日(木)午前10時00分開会 - 午前11時00分閉会

場 所 役場3階 第2委員会室

出席委員 田代委員長、岡本副委員長、鍛冶、和田、谷本、反保、小川
辻下(正)議長、出口監査委員

欠席委員 なし

傍聴議員 奥野、竹内、中原

出席理事者 石田町長、平副町長、松永事業部長、藏ヶ崎事業部理事、家永事業部事業課長、
梶本事業部地域振興課長、西事業部第二阪和等プロジェクト推進課長、
鶴岡事業部事業課参事、伊吹事業部第二阪和等プロジェクト推進課参事、
末原上下水道部長、吉田上下水道部水道課長、木下上下水道部下水道課長

案 件

(1) 付託案件について

(午前10時00分 開会)

田代委員長 おはようございます。

傍聴の皆さん、おはようございます。ご苦労さまでございます。

本日は、本委員会にご出席、ご苦労さまでございます。

ただいまの出席委員は7名でございます。

理事者の方は全員出席でございます。

定足数に達しておりますので、ただいまより事業委員会を開催いたします。

議案の審議に当たりましては、十分意を尽くされましてご審議をいただき、あわせて議事が円滑に運びますよう、よろしくご協力のほど、お願いいたします。

なお、いつものことでございますけれども、携帯電話をお持ちの方は、マナーモードにしてくださいよう、お願いいたします。

6月5日の本会議において、本委員会に付託を受けました議案3件の審査を行います。

それでは、これより議事に入ります。

その前に、会議の進め方について、委員の皆さん、何かございませんか。

(「委員長一任」の声あり)

田代委員長 ありがとうございます。それでは、私の方から進めさせていただきます。

なお、質疑についての理事者の答弁は、答弁者の所属部署と氏名を言ってから、お願いいたします。

それでは、議案第50号「平成19年度岬町一般会計補正予算(第1次)の件」のうち、本委員会に付託された案件について、議題といたします。

本件について、担当課からの説明を求めます。

梶本事業部地域振興課長 それでは、1ページをご参照ください。

平成19年度一般会計補正予算(第1次)のうち、当委員会に付託されました案件について、ご説明申し上げます。

歳入でございますが、分担金及び負担金、農業費分担金としまして25万円の補正をするものです。内容につきましては、淡輪の只山新池が漏水しております。これを大阪府単独事業としまして、改修するための設計委託料50万円の2分の1を受益者であります淡輪西水利組合から分担金として歳入するものでございます。

続きまして、歳出の農林水産業費、ため池管理費としまして、200万円の増額補正をするものです。内容につきましては、先ほど歳入でご説明申し上げました只山新池の漏水

改修工事の経費でございます。内訳につきましては、設計委託料の50万円と、工事費600万円のうち、岬町負担分であります4分の1の150万円を補正するものでございます。

以上でございます。

田代委員長 ただいまの説明に対して、質疑、ご意見はございませんか。

(「なし」の声あり)

田代委員長 ないようでございますので、本件に対する質疑はこれで終了いたします。

続いて、討論を行います。まず、反対討論の方、ございませんか。

(「なし」の声あり)

田代委員長 次に、賛成討論の方、ございませんか。

(「なし」の声あり)

田代委員長 ないようですので、討論を終わります。

続いて、採決を行います。

議案第50号「平成19年度岬町一般会計補正予算(第1次)の件」のうち、本委員会に付託されました案件について、原案のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手全員)

田代委員長 満場一致であります。よって、議案第50号のうち、本委員会に付託された案件は、可決されました。

続いて、議案第53号「平成19年度岬町下水道事業特別会計補正予算(第1次)の件」を議題といたします。

本件について、担当課からの説明を求めます。

木下上下水道部下水道課長 それでは、平成19年度岬町下水道事業特別会計補正予算(第1次)の件について、ご説明いたします。

委員会資料の2ページをごらんください。

歳入でございますが、繰入金、下水道基金繰入金としまして、1,333万5,000円の増額補正を行うものでございます。増額理由としましては、国の通達に基づき、公共下水道事業の事業再評価を実施するため、事業再評価に係る資料作成等業務委託料に充当するものでございます。

続きまして、歳出でございますが、事業費の公共下水道事業費としまして1,333万5,000円の増額補正を行うものでございます。増額理由としましては、先ほど歳入と

同様でございます、公共下水道事業の事業再評価に係る委託料でございます。

以上でございます。

田代委員長 ただいまの説明に対し、質疑、ご意見はございませんか。

和田委員 ちょっとわかりにくいから、次の評価というんですかな、これは今までやったちょうんか、事業したやつを再評価するんか、これから何かするのにするんか、どういう評価をするのか。

木下上下水道部下水道課長 評価につきましては、今後、残る残事業の投資的な効果とか、事業全体の投資的な効果を評価するものでございます。

田代委員長 和田委員、補足説明あるようですので。

末原上下水道部長 国の通達がありまして、その内容は、公共下水道事業における透明性とか、あと客観性を確保して、住民に説明できるように費用対効果を図るなど、この事業の妥当性について検討するという事です。過去にも、岬町の場合は、元年から工事を始めています。平成10年に通達がございます、10年にも再評価をしております。そこからまた10年たちましたので、国の通達に基づきまして、平成20年度に事業評価を行うために、事前に、今回の委託業務を発注する内容となっております。

以上でございます。

田代委員長 ほかにございませんか。

反保委員 今、下水道工事の方は、どれくらい進んでいるんですか。

木下上下水道部下水道課長 普及率につきましては、19年3月末で62.8%となっております。

反保委員 今後の展開は、今までのスピード、当然のごとく落ちていくわけですか、それとも同じような形で伸びていくんですか。

末原上下水道部長 従来のスピードということのお問い合わせでございますが、実は、5カ年計画というものを立てまして、今年度まで進んできたわけなんですけども、今年度、これから5年の進捗をどうするかということの認可申請を行う予定になっております。今回の事業評価を受けて、また国に申請していくわけなんですけども、財源的には、議員ご承知のとおり、町の財政というのは非常に苦しい状況になっております。現在、62.8%の普及率ということで、市町村レベルでは、町の人口2万人規模につきましては、割と十分できているところに来ておることも踏まえて、今後、町の財政と十分協議して、定めまして、また議会にお示ししていきたいと考えております。

谷本委員 今の反保委員の質問と関連するところがあるんですけど。今、普及率が62.8%とい

うことですが、供用開始できて、水洗化工事できるにもかかわらず、いまだに水洗化をしていないと。ただ、水洗化率というのは、今、何%ぐらいなのか。

木下上下水道部下水道課長 岬町全体で、19年3月末で76.93%となっております。

谷本委員 私が記憶している感じ、平成8年ぐらいに、淡輪地域で供用開始できたと思うんですよ。そのときに、私らも水洗に切りかえたわけなんですけど、今、平成19年ですから、それから約10年、11年たっているわけなんですけど、いまだにバキュームカーでくみ取りが来ていると。当初、水洗化にするときは、住民を集めて説明会とか、そういうことをいろいろやって、そのときはぱっと水洗に切りかえたけれども、その後、それが一たん過ぎてしまうと、あとのPRをどうしているのか。10年たっても一向に伸びてこない、水洗化がね。そこら辺のPRをどうしているのか、ちょっとわかっていたら。

木下上下水道部下水道課長 委員ご指摘のように、PRにつきましては、当初供用開始をした時期に比べまして、広報等での周知するのは、ちょっと減ってきているのはあるんですが、今後やっていかなければならないというふうに考えてはおります。

先ほど言われたように、供用開始に当たっては、住民説明会を開催して、十分水洗化を図っていただくように、説明もし、それから、委員もご存じだと思うんですが、助成金制度も設けて、水洗化を図る制度もつくっておりますので、この辺をもっとPRをしていかなければならないというふうに、原課の方は考えておるところでございます。

谷本委員 これだけの大きな事業、高額な予算を使ってやっている事業において、古い町並みですとね、道路の擁壁とか、屋敷の擁壁とか、水路なんか皆、今、石垣のところが多いんですよ。そういうところに、早く水洗化にせんと、生活雑排水を皆流しているわけでしょう。そこに、石垣の目の中に、そういう汚物がたまってしまう、入り込んでしまう。これからの季節になってくると、なお一層、衛生面でも悪くなってくるわけです。だから、これを早く水洗化するように、町としても、もっと力を入れていただきたい、かように思うんですね。

例えば、目標値を立てて、何年には何%まで持っていこうと。今、どれくらい進んでいるけども、何軒くらい残っていると。そこを何とか克服しようという、そういう目標値というようなもん立ててやってもらわれへんのかどうか。もう一回お願いします。

末原上下水道部長 委員ご指摘のように、供用開始から10年ぐらいたっているのにもかかわらず、いまだにくみ取りがあるということで、供用開始すぐに水洗化した方から、反対に、町の方に苦情があって、7、8年もたっているのに、まだくみ取りやっている、どうなってる

のか。町として指導したらどうやという問い合わせもございまして、私も、実は、その家庭に訪問して事情を聞いた経緯があるんですけども、それを一例としてお話しすると、やはり老人のひとり世帯、女性の方であると。敷地については、その方の所有、家屋も所有しているけども、収入的に非常に苦しい状況やと。いろんな話の中で聞かせていただきますと、やっぱりひとり世帯のために、水洗化にもお金がかかるから、補助制度の話も知ってたけれども、その時期も逃してしまったという経緯がございました。よくよく話しますと、最終的には、息子さんの方がお金を出して、水洗化は終わったんです。これは反対に特異な例と、私は思っております。

ひとり世帯で、息子さんとか、娘さんが戻ってこないのに、あと数年の間に水洗化の費用を出せないんやと。こういう状況も踏まえて、余り強固に町もアピールできないということもございます。当初、町の目標というのは、助成金は3年間ということで、補助制度をもうけております。これについては、国の方から供用開始をすれば、3年以内に、法律で水洗化しなさいということもございますので、町も補助制度を設けておるんです。ちなみに、淡輪の場合は、約8割の人口の方の整備が終わっております。その方の約8割の方が水洗化をしていただいております。全国的な判断の中では、会検の方から、70%を切るものについては、事業に対する問題があるのではないかと指摘もございます。

ちょっと言いわけになるとは思うんですけども、淡輪の場合、大体8割が整備できていて、その8割の方が水洗化できているという経緯も踏まえて、町としては、一定の成果が出てると判断をしておるんですけども、今後、利子補給の制度もございますので、周知して、PRに努めていきたいと考えております。

以上です。

谷本委員 バキュームカー来てるところを見ると、今、部長言うたように、生活困窮しているような家ではないわけなんです、私の目から見ればね。そういうような家庭でも、いまだに水洗化していない。だから、町のPRはどうなっているのかなと言うてるわけね。今後、そういう家庭、まだまだあると思いますんで、なお一層、努力していただくように要望しておきます。

以上です。

田代委員長 ほかに。

和田委員 先日の南部流域下水道の報告の件やけど、これ関連して言えるか思いますけど。ちょっと町長に聞きたいんですけど。私は、去年、南部流域下水道の委員になってましたんで、

ちょっと聞くのは。聞き漏れたあれもあったんかもわからへんのですが、4月25日に、一応、南大阪湾岸流域下水道事業連絡協議会ですか、ここで一応、基本合意の確認をしたということになってるんですが、これは、町長、あれですか、やっぱり13市町よるんか知りませんが、大体寄った首長は、皆賛成になっていると思うんですけど、反対の方おらんかったんか聞きたいんと、町長は、岬町としたら、やっぱりまだ流域で楠木まで何とか延長してほしいという気持ちがあるんで、私個人としては、まだ一元化するのは、ちょっとなあと思っているんですけど。その点、町長、どんなように考えているのかな。一元化するについて、岬町を考えた場合、どのように考えているのか、それちょっとお聞きしたいんです。

石田町長 問題点残ってましたのは、結局、プロパーの職員さんで、その身分をどうするかという点で問題が残ってた部分もあったんですけども、最終的には、各自治体で吸収するという形、南に関しては、そういった問題もなかったんですけども、そういった点、解決いたしましたので、各首長とも、すべて一本化にすることに関しましては、経費の削減につながるという形で賛成いたしております。私も同様の考えをいたしております、これからの流域考える中ででも、経費削減になるという形では、一本化には反対をいたしておりません。

以上でございます。

和田委員 それで結構ですけど。とりあえず、私としては、楠木までの流域下水道の延長を要望しておきます。

末原上下水道部長 今、ちょっと説明の方で、基本的には、この流域の維持管理、処理場の維持管理の問題について一元化ということで、この前も説明させていただきました。今、委員ご要望の楠木までの延伸につきましては、町としても、議会としても、前から末端の市町村であるということで、流域幹線で引っ張っていただきたいという要望は、今後もやっていきたいと考えておりますが、何分、採択基準が全国的な国の基準でできておりますので、非常に困難ではあるとは考えますが、町としては要望していきたいと考えております。

田代委員長 よろしいですか。ほかにございませんか。

(「なし」の声あり)

田代委員長 私の方から、ちょっと要望しときますけども。今、各委員の中で、公共下水の進捗状況についての意見が述べられておりますので、できれば各委員に、現在までの、淡輪、深日、そういった進捗状況、また問題点があれば、こういうところがネックになってんねやと。

それをあわせて資料を各個人に配付できたら出して、理解を求めておいてください。それだけつけ加えておきます。

ほかになければ、本件に対する質疑はこれで終了いたします。

続いて、討論を行います。まず、反対討論ございませんか。

(「なし」の声あり)

田代委員長 次に、賛成討論ございませんか。

(「なし」の声あり)

田代委員長 ないようですので、討論を終わります。

続いて、採決を行います。

議案第53号「平成19年度岬町下水道事業特別会計補正予算(第1次)の件」について、原案のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手全員)

田代委員長 満場一致であります。よって、議案第53号は、本委員会において可決されました。

続いて、議案第55号「岬町海釣り公園の指定管理者の指定の件」を議題といたします。

本件について、担当課からの説明を求めます。

西事業部第二阪和等プロジェクト推進課長 岬町海釣り公園の指定管理者の指定につきまして、補足説明をさせていただきます。

お手元の資料の4ページをごらんください。

まず、指定管理者制度についてですが、多様化する住民ニーズにより効果的、効率的に対応するため、公の施設の管理に民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上を図るとともに、経費の節減等を図ることを目的とし、平成15年に地方自治法が改正され、指定管理者制度が設けられることとなりました。本町では、現在、健康ふれあいセンター、淡輪老人福祉センター、淡輪火葬場で指定管理者制度が導入されているところでございます。

次に、岬町海釣り公園の指定管理者制度の選定についてですが、まず、指定管理候補者の選定経過について説明をさせていただきます。

3月8日、事業民生委員会で岬町海釣り公園指定管理者の募集要項を説明し、3月12日から30日まで、募集要項の配布を行いました。募集に際しましては、町内回覧、町のホームページ、全国的な指定管理者の募集サイトへの掲載、大手釣具店、釣り具メーカーに周知を行ったところでございます。

3月30日、募集説明会を開催し、11事業者から参加がございました。4月26・2

7日の両日、申請書類の受け付けを行い、3事業者から応募いただいております。この応募書類に基づきまして、5月18日、第1回指定管理候補者選定委員会、5月24日、第2回指定管理候補者選定委員会を開催し、プレゼンテーションと事業者からのヒアリングを実施いたしました。5月30日、第3回指定管理候補者選定委員会を開催して、優先交渉権者を決定いたしました。

次に、指定管理候補者選定委員会の委員ですが、観光、まちづくり、地域振興、会計の専門的な立場から、小坂 巍（岬町自治区長連合会会長）、平 徹也（岬町副町長）、中尾 清（大阪観光大学観光学部教授）、山内芳樹（財団法人関西空港調査会参与）、和中信隆（和中税理士事務所税理士）の5名の方をお願いをいたしました。

評価を行う上での審査基準ですが、次の8項目を公表し、この視点で評価を行っております。

ア 利用者の平等な施設利用が確保されること。イ 施設の効用を最大限に発揮されるものであること。ウ 効率的な管理運営業務を図ることができるものであること。エ 施設等の適切な維持管理を図ることができるものであること。オ 管理業務の事業計画書に沿った管理を安定して行う人員、資産その他の経営規模及び能力を有しており、または確保できる見込みがあること。カ 地域の活性化や地域と一体となった管理運営ができるものであること。キ 海釣り公園の特殊性にかんがみ、釣り施設の魅力向上、維持向上のための専門的技術及び知識を有し、当地の漁業権者と共存できるものであること。ク 関係法令等を遵守し、海釣り公園利用者の安全を確保しているものであること。

次に、5ページの評価項目と配点ですが、事業計画書といたしまして、海釣り公園の管理運営を行っていく上での基本方針、海釣り公園の管理運営体制と組織に関する計画、海釣り公園の管理運営に関する業務に係る計画、安全対策及び事故などの緊急時の対応に対する計画の4項目を評価し、合計65点を配点いたしております。

次に、事業提案書ですが、サービスの向上を実現するための提案、利便施設の管理運営に関する業務の提案の2項目を評価し、合計20点を配点しました。

最後に、収支計画ですが、海釣り公園及び利便施設の収支に関する計画として、15点を配点いたしております。

選定結果と選定理由ですが、優先交渉権者は、住所が大阪府泉南郡岬町多奈川小島597番地、名称が岬町小島海釣り公園管理運営協議会、代表者 山原 學です。

選定の理由ですが、本施設の特徴を生かすための提案や、本施設を核として、地域全体

の発展を図るための具体的な手法が提案されており、他の海釣り公園施設との違いを明確に認識した「オンリーワン」の施設とするための視野の広い提案を行っている。

だれもが気軽に「釣り」を楽しむことができることを視野に入れた提案や、釣果を向上させる具体的な提案を行うとともに、近隣施設を意識した利用料金、開園日、開園時間の設定を含めて集客性を高める提案を行っている。

収支計画においては、独自に既存施設の視察や聞き取り調査を行い、調査結果を生かした堅実な収支を計算し、現実的な利用者数を見込んだ上で募集要項の条件を遵守した提案を行っている。

既存施設の視察や聞き取り調査を行い、勉強会を開催するなど運営への取り組みに対する熱意を持っており、また、地域と一体となった管理運営、当地の漁業関係者との共存が期待されるという評価がされ、評価点数として合計80点と、3事業者の中で最も高く評価をされたところでございます。

選定委員会の審査結果を受け、町として、海釣り公園の指定管理者として指定するため、議案を提出させていただいたものでございます。

この岬町小島海釣り公園管理運営協議会は、海釣り公園の指定管理者の指定を目指して設立された小島自治区民と小島漁業協同組合の組合員で構成された団体で、現時点では海釣り公園の指定管理者の指定を目指して、自治区の役員、漁業組合の役員、婦人部の方、青年団の代表、小島養魚場の代表の15名の方がメンバーとして、また、大学の先生をオブザーバーとして迎えた組織を構成されております。

指定管理者として指定され、正式に海釣り公園の管理を行うことが決定されれば、小島自治区民と小島漁業組合の組合員に運営スタッフを募集すると聞いております。

提案をいただいた運営の内容ですが、簡単にご説明をさせていただきます。まず、基本的な運営方針として、設置目的である「住民の余暇と健康の増進に寄与する」、「だれもが安心して釣りが行える」ことを施設運営の基本方針の第一として、地元との共存共栄を実現する地域の振興施設を目指す。指定管理者として効率的運営と経費の節減に努め、適切な収益の確保を目指す。「道の駅」としてその魅力を広く発信し、「岬ブランド」として地元の海産物や農産物の販売を行う。地元雇用を行うことで地域の活性化につなげる。施設の魅力を向上し、集客力をアップすることによって、町を訪れる人の数をふやし、地域の活性化に貢献する一拠点となる施設を目指す。長期的な視点に立った持続的な収益を目指すとともに、環境にも配慮し、地域並びに海の環境保全に努めるという方針が示され

ております。

地域との連携についてですが、従業員スタッフは地元の雇用を優先する。施設で販売する物品は地元生産物、地元業者から仕入れを優先する。

田代委員長 ちょっと、それだけやったら、資料、やっぱり出しとかなあかんわ。資料提出しとかなあかんわ。ある程度まで、わしも黙ってたんやけどね。資料ある。

西事業部第二阪和等プロジェクト推進課長 原稿をコピーすれば、すぐ。

田代委員長 ちょっとコピーして、渡して、もう一回あれして。

西事業部第二阪和等プロジェクト推進課長 わかりました。

田代委員長 休憩したいと思います。よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

田代委員長 ご異議なしと認めます。暫時休憩いたします。その間、資料用意して。

(午前10時33分 休憩)

(午前10時43分 再開)

田代委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

ただいま委員さんの方からご指摘がありまして、説明の中で資料不足ということでありましたので、直ちにお手元に資料を配付いたしました。

引き続き説明を求めたいと思いますが、よろしいですか。先ほどの続きで結構です。はい、どうぞ。

西事業部第二阪和等プロジェクト推進課長 お手元の方に、岬町小島海釣り公園管理運営協議会の主な提案内容をつけさせていただいております。この資料につきまして、再度説明をさせていただきます。こちらにつきましては、岬町小島海釣り公園管理運営協議会さんが提案いただいた内容を要約したものでございます。

まず、先ほど説明させていただきましたのが、基本的な運営方針ということで、まず、丸の一番上でございます。施設の設置目的である住民の余暇と健康の増進に寄与する、安全でだれもが釣りが行えることを施設の運営の基本方針の第一として、地元との共存共栄を実現する地域の振興施設を目指す。管理者として効率的運営と経費の削減に努め、適切な収益の確保を目指す。「道の駅」としてその魅力を広く発信し、「岬ブランド」として地元の海産物や農産物の販売を行う。地元雇用を行うことで地域の活性化につなげる。施設の魅力を向上し、集客力をアップさせることによって、町を訪れる人の数をふやし、地

域の活性化に貢献する一拠点となる施設を目指す。長期的な視点に立った持続的な収益性を目指すとともに、環境にも配慮し、地域並びに海の環境保全に努めるという方針が示されておりあります。

続いて、地域との連携についてですが、従業員スタッフは地元の雇用を優先する。施設で販売する物品は地元生産者、地元業者から仕入れを優先する。地元の海産物や農産物の販売を行うとともに、ふれあい広場で商工団体、漁業者団体と連携して、日曜日などのイベントを開催する。エントランス広場や多目的スペースを住民の交流スペースとして写真や絵画等の作品を展示する。収益の一部を地域の催しや施設の支援、海の清掃活動や魚礁設置に充て、地元還元するといった提案が行われております。

雇用につきましては、地元の住民並びに漁業関係者を優先してスタッフを確保する。高齢者や障害者の働く場所の創出に努めるといった提案が行われております。

利用料金につきましては、近隣施設の設定を考慮して、釣り料金、大人1,260円、小人630円、見学料、大人200円、小人100円とする。また、各種割引制度として、障害者と介護者の料金を半額にする。回数券を導入(11回で10回分の料金)する。団体割引を導入する。ふれあいセンターと共通利用券を発行するという提案がなされております。

利用時間につきましては、1月から3月については7時から17時、4月から10月については6時から20時、11月・12月については7時から17時とする。

休園日については、毎週金曜日、12月31日から1月3日とするという提案がされております。

そのほか選定理由にもありました本施設の特徴を活かすための提案として、デッキの部分やふれあい広場を活用した事業の提案、売店の運営に関する提案、安全対策に対する提案がなされております。

指定管理者として議決をいただきましたら、これらの提案事項を踏まえて、協定書を締結し、10月1日から平成25年3月31日までの期間、指定管理者として管理をお願いするものでございます。

以上で説明を終わらせていただきます。

田代委員長 はい、ありがとうございます。

ただいま資料不足でありましたけども、ご意見ございませんか。

和田委員 今、これは出してくれたんやけど、もう1点抜けているんとちゃうんかな。組合の組織

ちゅうんか。

田代委員長 それは、先ほど口頭で説明があったんですけども。もう一度、説明してくれますか。

西事業部第二阪和等プロジェクト推進課長 小島海釣り公園管理運営協議会の組織でございますが、小島の自治区民と小島漁業協同組合の組合員で、現在構成された団体となっております。現時点では、海釣り公園の指定管理者の指定を目指しまして、自治区の役員さん、漁業組合の役員さん、それと、婦人部の方、青年団の代表の方、小島養魚場の代表の方の15名の方がメンバーとして構成されております。そのほかオブザーバーとして、大学の先生が入られております。なお、正式に指定管理者となったときには、小島自治区と小島漁業組合の組合員に運営のスタッフを募集するというふうに聞いております。

田代委員長 よろしいですか。ほかに。

谷本委員 ちょっと参考に聞かせていただきたい。4月26・27日に応募書類の受け付け、あと2業者というのは、これはどういうところが応募してきたんか。

西事業部第二阪和等プロジェクト推進課長 参加いただきました11事業者につきましては、氏名を公表することを承諾いただいて情報を収集しておりませんので、事業者名を公表するというにつきましては、選定されなかった事業者も類推されることとなりますので、情報公開条例上、情報の公表を控えさせていただければと考えております。

なお、参加いただきました業者につきましては、11事業者のうち、町内事業者が2業者、町外事業者が9事業者となっております。なお、業種については、私どもの方では情報はとっておりません。

また、応募のいただいた3事業者につきましては、同様の理由で、事業者名については公表を控えさせていただきますが、大阪市内の業者が2団体と小島さんでございます。大阪市内の2団体さんにつきましては、ビルのメンテナンス関係の事業者でございます。

谷本委員 それ以上のことは言われへんのやな。

田代委員長 西課長ね、情報公開のいろんな個人情報、会社、企業の問題があるというけど、選定をするに当たっての企業者名が公表できないというふうにとってもいいんかな。それは問題ないと思うけどね。

西事業部第二阪和等プロジェクト推進課長 情報公開条例の第6条第1号の中で、会社の信用に関することについては、公表を控えることができるという規定がございます。今回、すべての業者を公表しますと、落選事業者の会社名が公表されることとなりますので、落選をするということに対して、いわゆる会社としての信用に影響を及ぼす恐れがあるということ

で、会社名の方は公表を控えさせていただいているところでございます。

田代委員長 今、委員さんの発言が出てるので、あえて言いますけども、例えば、建築業者、土木業者が入札をするについては、業者すべて閲覧で公表して、幾らで落ちたというふうに、あれは、じゃあそういう個人情報、会社情報ちゅうんか、それに当たらん。こういう選考だけが当たるわけ。その辺だけ、ちょっと確認だけ。

西事業部第二阪和等プロジェクト推進課長 この応募につきましては、いわゆる会社からいろいろ独自の自分とこで考えた内容、会社としてのノウハウをもって提案をされた内容というふうに考えております。そのために、その結果をもとにして判断したということになりますので、当然、その内容が非常に未熟であるということにつながるかと思いますので、一般的にはこういう指定管理者なり、応募いただいた団体名の公表というのは差し控えさせていただいているところでございます。

田代委員長 差し控えさせているんじゃないしに、それは法的に問題があるというふうに、はっきりと言うといてやらんと、差し控えるとかいうようなことになると、あんた、担当の考え方になるからね。それで、僕、さっきから言うてるのよ。委員さんの発言は、もうちょっと企業名言われへんのかと言っているんやから、それは会社のそういった信用問題があるんで、そういう個人情報に抵触するんやということをはっきりと言うてあげたらいいんちがうかなと思うんやけどね。ただ、それを差し控えるちゅうことになったら、あんた個人になるから、それではちょっと、あんたに対する、もし間違ったときに、それを私心配して言うてるんで、その辺は明確に答弁しといてあげてください。

西事業部第二阪和等プロジェクト推進課長 岬町情報公開条例第6条第1号の規定に該当するというふうに判断しております。

鍛冶委員 5ページの評価点数、マイナス20点あるんですね。これ、参考までに、どういうところでマイナスになったんか。

それと、もう1点が、以前にも説明受けましたけども、この10月1日から正式に指定管理者にやっていただくということで、採算面、いろいろ努力されてやられますけども、採算面でいろいろ採算割れしたときに、積立金から充当とか、いろいろ前説明受けたんですけども、その辺を再確認したいんです。というのが、どういうことがあっても、町からは補てんしませんよという前提でやってますね、この件は。そういう点をもう一度、再度確認したいんです。お願いします。

西事業部第二阪和等プロジェクト推進課長 20点の評価につきましては、満点が100点という

ことですので、それぞれの基準ごとに、やはり若干の評価が低かったということで、どこ
の点数が低かったというんじやなしに、総体的に、項目ごとに点数がつけられたというふう
に判断しております。

それと、採算面でございますが、事業者から収支計画の提案書を出させておるんですが、
提案内容におきましては、黒字経営できるという数字を提出しております。また、下津の
海釣り公園、昨年、現地の方へ視察に行っていたところでございますが、17年度
の決算で約800万円の黒字が出たということは、昨年度も報告させていただいたところ
でございますが、今年、確認したところ、18年度につきましては、1,000万円を超
える黒字が計上されたという報告を受けております。その辺も踏まえまして、この施設に
おいても十分採算性はとれるというふうに、私どもも考えておるところでございます。

なお、万が一赤字になったときということでございますが、基本的には、私どもの方か
ら、健康ふれあいセンターのように、委託金を支払うという予定はしておりません。その
赤字については、指定管理者の方に努力をいただくということになるわけですが、町
としても、あの施設で集客性のあるイベントを打つなどの側面的な支援を行わせていただ
きたいと考えております。

なお、積立金のお話でございますが、積立金につきましては、私ども、大規模修繕、将
来に発生するであろう大規模修繕を見越した基金として積み立てる予定を考えております
ので、赤字を補てんするために、その基金を使うという予定については、現在のところ、
いたしておりません。

以上です。

鍛冶委員 そのように前、説明を受け、前の資料には出てましたけども、積立金は全てそういう修
繕・補修に使うということですね。だからどういことがあれ町としては採算割れしたと
きには補てんはしないと、そういう考えでよろしいんですね。皆さんその辺を大分心配
されておるようですので、その点で、もう一度はつきりとお願ひします。

西事業部第二阪和等プロジェクト推進課長 3月の委員会の中でもご説明させていただきましたが、
500万円の負担金をいただくということ、これは大規模修繕の改修ということで、町が
計画的に積み立てていくという経費でございますので、それを運営の赤字の補てんという
形では、町としては考えておりません。ただ、まだ実際に今まで実績のない施設ござい
ますし、また、いろいろ悪天候等発生して、指定管理者の責任に求められないような事由
が発生した場合とか、そういう場合も想定されるかと思ひます。そのときにつきましては、

例えば、町にお支払いいただく分には、施設整備の負担金と利用料金の10%を指定料金として指定管理者の方に条件づけておりますが、そのあたりについて、必要があれば見直しを検討していかなければいけないのかなというふうは考えておりますが、現時点としては、整備負担金として積み立てた金額を充当するという考え方は持っておりません。

岡本副委員長 委員長、交代いたしました。

ほかに何かご意見ございませんか。

辻下(正)議長 これ、雇用問題ですけどね、これは地元の住民並びに漁業関係者を優先するというところにうとてるんやけども、漁業組合以外の地元いうたら、小島の自治区のことを指しているんか、それとも岬町全体のことを指しているんか、その点だけ1つ。

西事業部第二阪和等プロジェクト推進課長 基本的には、地元ということで、やはりあの施設、朝の早朝から開始するということがありますので、もし何かあったときにすぐに対応できるということから、やはり一番地元の雇用を優先したいというふうに聞いております。小島の住民をまず優先したいというふうに聞いています。ただ、それでも必要な人員が確保されない場合につきましては、もうちょっと地域を広げて、募集をかけたいというふうに聞いております。

岡本副委員長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

岡本副委員長 なければ、本件に対する質疑はこれで終了いたします。

続いて、討論を行います。まず、反対討論ございませんか。

(「なし」の声あり)

岡本副委員長 それでは、次に、賛成討論ございませんか。

(「なし」の声あり)

岡本副委員長 ないようですので、討論を終わります。

続いて、採決を行います。

議案第55号「岬町海釣り公園の指定管理者の指定の件」について、原案のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手全員)

岡本副委員長 満場一致であります。よって、議案第55号は、本委員会において可決されました。

以上でございます。

田代委員長 大変失礼しました。ちょっと急用が入りまして、副委員長に代行させていただいて、

えらい申しわけありません。ありがとうございます。

以上で、本委員会に付託を受けました議案3件については、すべて議了いたしました。

本日の審議経過並びに結果については、次の本会議において委員長報告を行いますので、委員の皆様方のご協力をお願いいたします。

これで事業委員会を閉会いたします。

どうもありがとうございました。

(午前11時00分 閉会)

以上の記録が本町議会第2回定例会付託委員会の会議のてんまつに相違ないことを記するため、ここに署名する。

平成19年6月7日

岬町議会

委 員 長 田 代 堯